



▲ながと体験プログラム「ナガトリップ」通年プログラム 『歌舞伎なりきりツアー』

市民とともに育てる 観光地ながと

長門市観光コンベンション協会の協会報「Nanavi Paper」。
今号は令和8年1月に実施した「市民アンケート」の結果から見える、長門市の観光への期待や実感を紹介します。
あわせて、令和7年度に当協会が取り組んだ主要事業を振り返り、『観光地ながと』がどのように歩みを進めてきたのかお伝えします。

観光を育てるまちとしての長門市の姿を、データと市民の声、そして事業の成果からご覧ください。

今回の Nanavi Paper

- 特集1 長門市民が感じる『観光地ながと』について
～令和7年度 長門市住民満足度調査から見える姿～
- 特集2 令和7年度事業 ふりかえり

特集1

長門市民が感じる「観光地ながと」について 令和7年度長門市住民満足度調査から見える姿

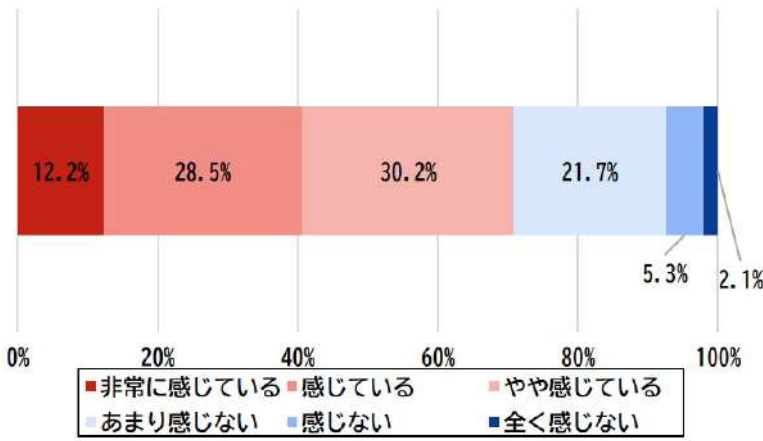
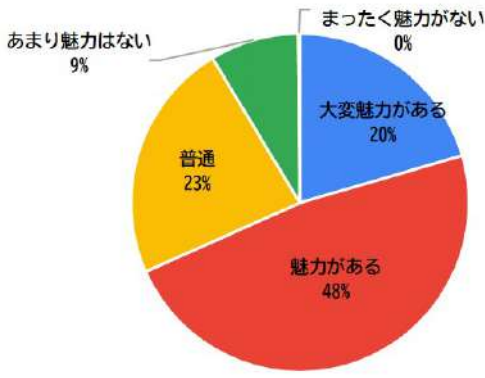
令和8年1月に実施した住民満足度調査では、604人もの市民の皆さまから「観光地ながと」への想いを寄せていただきました。

昨年度の291人を大きく上回る回答数は、観光への関心の高まりそのもの。寄せられた声からは、観光の魅力や効果を実感する手応えと、長門市が観光を育てるまちとして歩みを進める力強い後押しが、市民の声から伝わってきました。

「強い魅力」が伸びた 今年度の特徴

「長門市の観光に魅力はあると思いますか？」という問いに対し、魅力を感じる市民の割合は前年と同水準で安定しています。

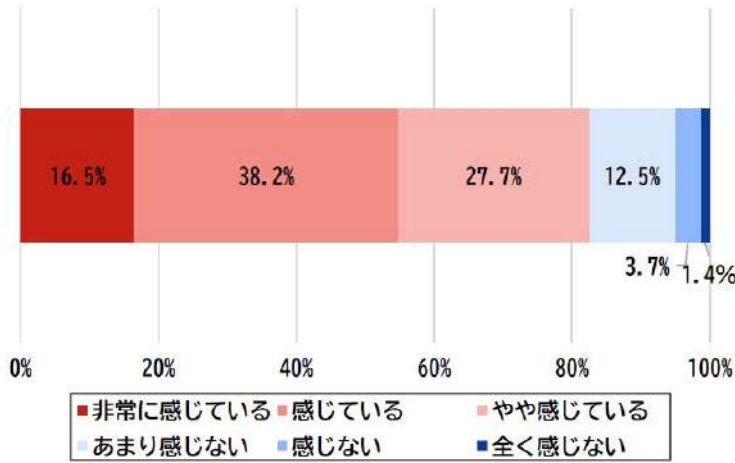
一方で「大変魅力がある」は昨年から8ポイント増加し、強い魅力を実感する市民が確実に増えていることが分かります。



「観光客の来訪によって経済的に良い影響を感じていますか？」という問いに対し、70.9%（やや感じている）以上の合計値の市民が良い影響を実感しており、山口県全体の43.1%を大きく上回る結果となりました。

さらに、長門市は前年から13.7ポイント増と大きく伸びており、観光の経済効果を感じる市民が着実に増加していることがうかがえます。

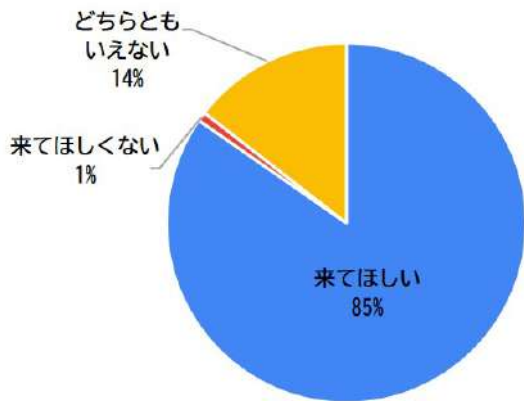
観光がもたらす「経済の手応え」が広がっています



「観光客の来訪に喜びや誇りを感じていますか？」という問いに対し、82.4%の市民が肯定的に回答しており、山口県全体の40.9%と比べても40ポイント以上高い圧倒的な水準を示しています。

観光はもはや「外から来るもの」ではなく、市民一人ひとりの中に「まちへの誇り」として確かに根付いていることが、この結果から読み取れます。

観光が市民の「誇り」として根付く長門市



「多くの方に観光に来て欲しいですか？」という問いに対し、85%の市民が「観光客に来てほしい」と回答しており、多くの市民が来訪を歓迎する姿勢を示しています。

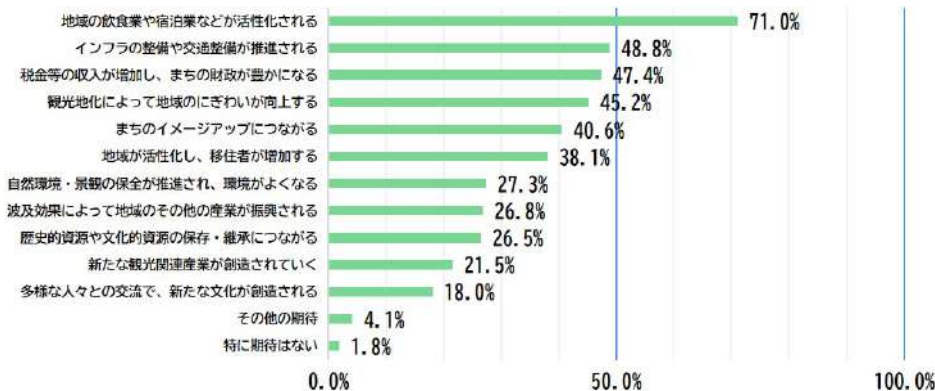
コロナ禍を経て、観光をもとに育てていこうという気持ちや市民の間に着実に根付いていることがうかがえます。

観光を一緒に育てたいという思いが広がるまち

観光に寄せられる強い経済的期待

今後、市民が観光に期待する効果としては「観光産業の活性化」「税収増」「インフラ整備など、経済面への期待」が特に高く示されています。

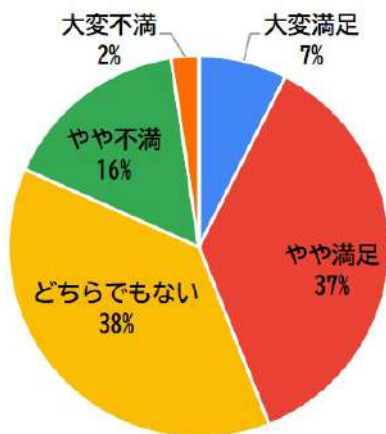
中でも「観光産業の活性化」は71%に達し、せとうち7県平均値のほぼ倍という非常に高い数値です。市民が観光を地域経済の大きな推進力として捉えていることがうかがえます。



“これから育てる持続可能な観光” 市民と歩むスタートライン

「持続可能な観光に対しての満足度は？」という問いに対し、取り組みが始まったばかりということもあり、「どちらでもない」が38%と最も多い結果となりました。

市民の評価はこれから形づくられていく段階であり、今後さらに取り組みを深め、満足度を高めていく努力が求められます。



市民とともに歩む
“観光を育てるまち”へ

今回の調査からは、観光が長門市にもたらす魅力や効果を、市民の皆さまが確かな実感として受け止め始めている姿が浮かび上がりました。一方で、持続可能な観光など、これから評価を高めていくべき分野もあります。長門市は、市民の皆さまとともに観光を育てるまちとして歩みを進め、地域の誇りと豊かさにつながる観光の未来を、これからも丁寧に築いていきます。

市民が望む観光の未来像 フリー回答からみえる『観光地ながと』への想い

交通・アクセス問題

- ・公共交通が弱いので車がないと観光地巡りがスムーズにできません。
- ・巡回バスやタクシーなどマイカーやレンタカー以外で気軽に乗れておすすスポットを巡れるものがあるとよい。

自然・文化資源の活用不足

- ・観光資源をビジュアル的にアピールする工夫が必要。
- ・海、山、温泉、食といった自然や資源を「見る観光」だけでなく、「体験する観光」に。

飲食店・土産店などの不足

- ・観光する場所の周囲に飲食店やお土産売場が少ないと思います。
- ・景観の良い飲食店がもっと増えたり、お土産の通りなどを整備して観光客が長時間滞在できるようにする。

イベントの不足

- ・様々な場所で様々なイベントをして、市内の小さなお店にも人が来るようになったらいいと思います。
- ・朝市等、市民も利用でき全国的に認知されるような中途半端でない大規模なイベントを定期的に開催。

情報発信の強化

- ・長門市は魅力的なものが沢山ある。全国的にはあまり知られていない。もっとPRを。
- ・たくさんの人に認知してもらうことが大事、もっとSNSを有効的に活用すべき。

おもてなし・接客意識

- ・地域で暮らす市民の「長門を誇りに思える気持ち」によるおもてなし。
- ・市民が、今ある環境の中で生活を楽しみ、笑顔で過ごしてる姿で訪れる人を迎える事が地域の力になると思います。

市民の皆さまから寄せられた450件を超える声には、長門市の未来をより良くしたいという強い願いが込められていました。最も多かったのは、交通アクセスや移動手段に関する声で、観光地が点在する長門市にとって「巡りやすさ」が大きな課題であることが浮き彫りになりました。

また、飲食店や土産店、若者が楽しめる場所の不足、自然や文化資源の活用、そして情報発信の強化など、長門の魅力をもっと活かせるはずだ”という前向きな意見が多く寄せられました。

さらに、市民自身が誇りを持てる街づくりや、おもてなしの心、地域全体で観光を支える意識の大切さを指摘する声も多く、観光は「市民とともにつくるもの」であることを改めて感じさせられます。

長門市観光コンベンション協会は、皆さまの声を地域づくりの出発点として、行政・事業者・市民をつなぎ、長門市の魅力発信に努めてまいります。

●ナガトリップ

「ナガトリップ」では、長門市の魅力を「旅のかたち」としてお届けするため、地元事業者の皆さまと連携しながら、体験型コンテンツの充実や新たなプログラムの造成に取り組んできました。

令和7年度は従来のプログラムに加えて、高価格帯の「PREMIUM GIBIER TOUR in YAMAGUCHI」など、これまでにない企画にも挑戦し、長門ならではの旅の可能性を広げる試みを進めました。こうした取組を通じて、地域資源の新たな活用方法を探る機会となり、今後のプログラム造成に向けた検討を深める一年となりました。引き続き、多様な旅のスタイルを提案できるよう、長門ならではの魅力を活かした取組を進めています。



●ながとプレミアム宿泊券事業

「ながとプレミアム宿泊券事業」では、販売開始から程なくして完売となり、その後の追加分も含め、多くの皆さまにご利用いただきました。

長門市観光コンベンション協会としても事業の情報発信などに取り組み、観光満足度の向上に努めました。

こうした取組を通じて市内消費が広がり、飲食や買い物、体験など、さまざまな分野で地域経済に良い効果が生まれた一年となりました。

●山口デスティネーションキャンペーン

令和7年度はデスティネーションキャンペーン(DC)本番に向けて、県内外でのPR活動をはじめ、観光列車の運行など、さまざまな取組が広域的に行われました。

あわせて開催された全国宣伝販売促進会議では、エクスカージョンにより長門市にも多くの旅行関係者等が来訪され市内の魅力を直接知っていただく機会となりました。

こうした一連の動きによりDCへの注目が高まり、地域としても機運が醸成され、今後の本番DCに向けて一層の盛り上がり期待されます。

山口デスティネーションキャンペーン『万福の旅 おいでませ ふくの国、山口』は、令和8年10月1日から12月31日にかけて開催されます。



●グルメマップ作成

長門ならではの“食の魅力”をもっと多くの方に知っていただきたい。その思いから、グルメマップ「せっかく長門に来たんなら〇〇食べさんっちゃ!」の制作に取り組みました。

市内のおすすめメニューを募集したところ、149件もの応募が寄せられ、皆さまからいただいた声をもとに人気のメニューを紹介するマップとしてまとめました。

完成したグルメマップは、長門の美味しい魅力を改めて感じていただくきっかけとなり、飲食店の利用促進にもつながりました。



●情報発信事業「PR会議」

令和7年度は情報発信の体制を大きく見直し、より効果的に長門の魅力を届ける仕組みとして、新たに「PR会議」を立ち上げました。

PR会議では、各地域の実情や魅力に精通した皆さんからプロモーション企画をご提案いただき、地域の皆さんと連携して取り組むなかで、その効果を確かめながら、長門の魅力をより多くの方に届ける発信へとつなげていきました。

新しい仕組みにより、地域の声がこれまで以上に反映され長門の魅力を等身大で伝えるプロモーションとなりました。

会報誌 Nanavi Paper vol.23

発行日 2026年4月1日

発行 一般社団法人長門市観光コンベンション協会

道の駅センザキッチン 観光案内所「YUKUTE」内

TEL 0837-27-0074 FAX 0837-27-0079 E-mail info@nanavi.jp

ながとの観光情報は「ななび」から
<https://nanavi.jp>

